



一般社団法人名古屋工業会会誌

こきそ

新春号

2024 1-2月号

【新年挨拶】

横山裕行理事長のあいさつ

木下隆利学長のあいさつ

【交流コーナー】

天皇杯・全日本男子弓道選手権大会優勝報告

初代清水学長と自動車同好会

【ホットライン】

第2回「名工大歴史館」開催約300人が来館

第61回 工大祭への協賛

第7回 鶴桜会交流会開催報告

【新聞記事コーナー】

中日新聞

【情報ネットワーク】

支部報告・会員ニュース

No.517

発行 一般社団法人名古屋工業会
(名古屋工業大学全学同窓会)

理事長 横山裕行

〒466-0061 名古屋市昭和区御器所町字木市29番

国立大学法人名古屋工業大学 校友会館内

TEL・052-731-0780

FAX・052-732-5298

E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>





新年の御挨拶

一般社団法人名古屋工業会
理事長 横山 裕行 (K49)



新年あけましておめでとうございます。皆様も良き新年を迎えられたと思います。

さて、コロナ禍も一段落で通常の生活に戻りつつあります。先日も工大祭が久し振りに従来の規模で開催され、沢山の方が来訪されていました。特に学生諸君のご家族の方が多く来られており、工業会が設けた「名工大歴史館」にも足を運んで頂き感謝しております。

さて、産業界に目を転じると私が現役時代に関わったクルマ業界も大きく変わろうとしています。先日、テスラのモデル3というEVに試乗する機会がありました。話には聞いていましたが、実際に運転してみるとリニアな加速感と心地良い乗り心地に驚いた次第です。また、室内の特にインパネのデザインなどは斬新で従来のクルマづくりとは一線を画した感を強く受けました。EVに加え自動運転については中国が相当進んでいます。国を挙げて開発を財政的にもサポートしていることに加え、中国市場を大きな実験場としてロボットタクシーなどが走りまわっているようで、色々な制約が多い日本は大きく水をあけられてしまうのではないかと心配になる程です。

EVにせよ自動運転にせよ制御ソフトの高度化や市場での様々なデータをフィードバックして、それらに織り込むことで更に進化させることが求められており、グーグルなど従来クルマとは縁のなかった企業が積極的に参画して来ています。また完全自動運転になると移動中をどう過ごすかということが課題となり、エンタメ系の企業の参画もありそうです。

すなわち従来はエンジン等の動力源を持つ企業が自動車メーカーとなり、長い間主導権を握って来た訳ですが、今はこの根幹をゆるがすかもしれない大転換機だと思います。既存の自

動車メーカーも何もしないと新しい勢力の下で単なる“組み立て屋”となるものと必死に自前での開発を急いでいます。いずれにせよこのような業界を越えた競争で技術が一段と進化し、豊かな生活を得られるようになることは決して悪いことではないので興味深く見守りたいと思っています。

次に工業会の活動について少し触れさせていただきます。大学に対しては現在推進されているアートフルキャンパス活動に協賛し、別枠での寄付をさせて頂き有益に活用されています。機会があればご来校頂き美術品やオブジェなどをご覧頂ければ幸いです。

また、コロナが落ち着いた事もあり多くの支部で支部総会が開催されました。各支部とも地域で活発な活動を進めて頂いており、大変感謝しております。私自身も数多くの支部総会に参画させて頂き、直接活動を拝見すると共に皆様とコミュニケーションを図らせて頂きました。

一方で、いくつかの課題も皆様と共有させて頂きました。特に工業会員(卒業生も含む)の消息を効果的、効率的にいかにか掌握するかということは最大の課題と認識しております。

昨今は個人情報保護法の観点や、メールやLINEの普及でコミュニケーションの取り方が大きく変化しているなど難しい面が多々あるものの、卒業生が工業会だけでなく単科会、クラブのOB会、クラス会、企業内の集まりなどで何らかのつながりは持っておられるので、それらの糸を何とかうまく紡いでより太いつながりになれば良いなと思っています。次年度に向け改善策を講じて行く所存ですので、是非ご協力をお願い致します。

最後になりますが皆様の益々のご活躍とご健勝を祈念し、新年のごあいさつとさせていただきます。

表紙写真説明

「徳川園の牡丹」

撮影者 名古屋工業会事務局



新年の御挨拶

名古屋工業会 会長
国立大学法人名古屋工業大学 学長
木下 隆利 (W50)



明けましておめでとうございます。

卒業生の皆様には平素から大変お世話になっております。具体的には、集計済みの2022年度では、卒業生や保護者の皆様から6千万円を超える寄附金をお預かりすることができました。また、地域や産業界との連携においても卒業生の皆様には、後方から側面から多大なご尽力を賜っており、民間企業からの共同研究費受入額は研究者1人当たりで換算して全大学中2位(2023年)を確保致しました。ご寄附をはじめ一連のご支援に対し、新年の紙面をお借りして心から御礼申し上げます。

新型コロナからの解放が進む中、海外への扉も開かれ、学生・教職員の渡航が徐々に活発になり、海外との交流・連携がもたらす教育・研究の質の向上も再起動し始めました。2023年8月から10月にはマレーシア工科大、ドイツのフリードリッヒ・アレキサンダー大学 (FAU) のトップが相次いで来学され、前者とは世界的課題解決のために取り組むべき研究方針とテーマについて、FAUとは2024年4月からスタートするジョイント・ディグリープログラム (国際連携・学位記授与制度) を活用したエネルギー的課題解決についてそれぞれ議論することができました。加えて、ジョイント・ディグリープログラムが先行するオーストラリアのウーロンゴン大学とは、両校のコアメンバーが本学に集結して国際シンポジウムを開催し、人工知能の安全かつ実践的な応用利用に関する直近の研究成果をシェア致しました。

一方、国内における大学連携では、2023年4月に名古屋大学医学部と連携協定を締結し、個人で進めていた共同研究を組織的に取り込む基盤を構築するとともに医学部内に本学の研究者が活用できる研究室を設置して頂き、日常的に医療関係者と接して現場ニーズに基づく医療系ものづくりがスタート致しました。更に、自動運転の安全性を認証する機関の設置を進めている本学にとって不可欠なコア技術のひとつを保有する大同大学とは2023年11月に基本協定を締結し、機関設置の円滑化を図りました。自動運転の広がりや左右する我が国唯一の安全認証機関として、今後の貢献が期待されています。また、愛知県立芸術大学とのアートフルキャンパス計画も順調に進展しており、県芸大教員による芸術系の講義が2024年4月から始動する他、卒業生をスタートアップ助教として雇用するなど両校の絆が深まりつつあります。アートとテクノロジーが融和して他の工科系学部・大学の卒業生とは一味違うエンジニアが旅立つ日が近いかもしれません。

名工大は皆様の幅広いご支援を拠り所とし、国内外の大学との真の連携を通じて、工学が世界で活躍する場を拡張しつつ、名工大の価値をより一層高めようと努力しています。

引き続きご支援の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

天皇杯・全日本男子弓道選手権大会優勝報告

平成7年 生産システム工学科専攻修了
トヨタ自動車株式会社 勤務
名古屋工業大学非常勤講師
豊田市弓道連盟 教士七段 原田 友康

交流コーナー

この度、9月30日より行われました弓道界最高峰の全日本選手権にて優勝、天皇杯をいただくことができました。74回の歴史の中で、愛知県としては5人目、19年ぶりの獲得となります。



入賞者表彰式（中央：原田）

徳川御三家である尾張名古屋、徳川家康のお膝元である三河のある愛知県は、古くから弓道が盛んな地域です。愛知県の弓道人口は全国トップの約11,000人、県内には62カ所の弓道場があり、中学生から高齢者までまさしく老若男女が広く弓道を楽しんでいます。私は高校より弓道を始めましたが、当時(おそらく今も)、愛知県下の高校弓道部の数は、野球部のそれを上回っていました。名古屋工業大学在学中も弓道部に所属し、教養棟テニスコート横にある弓道場で日々過ごし、そこから講義に通っていました(大学院試験の朝も弓の稽古をしてから臨みました)。

今回報告の全日本選手権は私にとってはあこがれの場所であり、いつかはあの場所に立ちたいとずっと願ってきた夢の舞台です。その場所に立てるよう弓道歴を重ね、およそ15年前より

挑戦してきました。最初の10年は愛知県の壁を超えることすらできませんでした。やっと本戦出場を果たせたのは5年前、今回で3回目となります。出場できることはとてもうれしいものでしたが、結果は惨憺たるものでした。

選手権が最高峰と位置づけられるゆえんの一つに、採点による予選が行われる点があります。これは的に矢が中った外れたではなく、採点審判員による、型、所作、技術の評価による得点づけがされるものです(フィギュアスケートやオリンピックの空手の型のようなものです)。各地方予選を勝ち抜いた選手全員が、あらためて2本2回の予選の上、その得点によって順位付けされます。49名の選手権出場者のなかから、得点上位の10名のみが決勝に進出となります。過去、この予選で上位に入れなかったわけですが、それ以上に明々白々と得点づけされ順位として発表されることは、自分自身の優劣をつけられているようで大きなショックを受けました。加えて、この予選に残れなければ、目指してきた選手権の舞台から途中で降りなければならないため、とても悔しい思いをしました。

今回、大会に臨むにあたっては、過去の大会の決勝進出者の映像を毎日のように見返しました。自分に足りないものは何なのか、どこに違いがあるのか、弓を引く技術(射技)のみでなく、立つ動作、足を踏む動作、矢を番える動作など一つ一つの動作を研究し、何度も何度も試行錯誤を繰り返してきました。愛知予選、東海予選の場で、それらを確認・修正していくことで、少しずつ手応えを感じることができました。そ

して迎えた本戦予選、ついに得点順3位で通過、念願の決勝進出を果たすことができました。

決勝の舞台はとてもワクワクとした楽しいものでした。決勝進出者は皆さん名の知れた、いわばスーパースターたちです。そんな中で「自分が弓を引いている」と思うと笑みがこぼれてくるのを押さえなければならぬくらいでした。プレッシャーや緊張をほとんど感じることなく、普段通りの行射に集中できたことが、優勝という望外の結果につながったのだと思います。勝負に勝とうとか、いい格好をしようなどと考えていたら到底できなかったと思います。



決勝最後の一射（原田）

今後もこの舞台に立てるよう、弓を引きつづけたいと思います。それに向け、道場の仲間たちと切磋琢磨し、自分らしい射を目指していきたいと思っています。



おわりに

名工大弓道部は東海学生リーグの一部校として、当時も現在も活躍しており、その歴史の中で、王座決定戦、大学選抜など、全国大会に何度も出場している強豪校です。在籍中、楽しいこともたくさんあった一方、厳しい練習や重圧の中での試合を経験してきました。その一つ一つを、先輩、後輩、仲間たちと乗り越えてきました。その時間は何ものにも代え難いものであり、すべてが私の財産となっています。選手権について振り返ってみても、結果を得たこと以上にこの舞台を目指したことで、師匠や先生方、仲間たちと過ごした時間から得たものがとても大きかったと思います。

弓道部はもちろん、名古屋工業大学の後輩たちも、結果とともに、自分なりの成果を得ることができる仲間と経験にめぐり合えるよう期待したいと思います。



自主練習中の弓道部学生（現在）

交流コーナー

初代清水学長と自動車同好会

柴田 孝介(Y28)

久しぶりに尋ねた母校の校門に入って左側の立木の中には初代学長清水勤二先生の胸像がある。像を前にして私はしばし思い出にふけた。



*碑の銘文：名古屋高等工業学校は明治38年 3月28日に創立せられ後改めて名古屋高等工業学校と称し工業技術者を育成すること1万2千有余に及び名古屋工業大学の開学に当たり校歴を叙して記となす

昭和26年3月
名古屋工業会長清水勤二

昭和26(1956)年の秋、友人伊藤史郎君と校庭を歩いていると名工大と書かれたトラックが止めてあった。遊びがてらに乗り込んだ所へ「おい、なにしとるんだ」と声をかけたのは機械工学科助手の西清さんだった。

「車の運転くらい覚えたい」などと話していて学長のところへ頼みに行こうということになりその場から学長室へ。

清水学長はつい最近米国へ出張して帰国されたばかり、以前は謹厳実直だった印象がすっかり穏やかな感じで喜んで対応してくださった。

「工学部の学生なら運転くらいは覚えたい」と話すと「私がアメリカの大学を尋ねた時、空港へ車で迎えに来てくれたのは先方の学長の息子さんで高校生位の年齢だった、君たちの言い分はもっともだ、なんとか考えてあげよう」と言われ、事務局や機械科の下山先生などと協議してくださることになった。

結局大学所有のトラック1台、戦前物のダッ

トサン乗用車それに「タマ号」という電気自動車を貸してあげるから自動車クラブを作れ、場所は機械科の内燃機実験室を使ってよい、ということになった。



*内燃機実験室前のクラブ初期の面々、中央が機械科助手西清氏
*当時は運転免許証を持っている人は殆どない時代で、大学にある乗用車は戦前製の乗用車シボレーと電気自動車タマ号各1台、他に戦時中のトヨタKC型トラックが2台、それに米国進駐軍払い下げ車を利用した小型バスが1台あった。専任の運転手は2名居たがなかなか手が回らない様子だった。

自動車クラブ結成のいきさつを聞いて数人の参加者が集まりとりあえず内燃機実験室にたむろすることになった。室の管理者は最初に校庭で話しかけられた西さんである。

さてそうは言っても簡単に自動車部が出来るわけではない。当時は学生自治会がクラブ活動の予算配分を任されていて、新たな部などが入り込む余地など無く、自動車部とは名乗れないのでとりあえず自動車同好会と名乗ることになった。

実験室では1台のトヨタKCトラックのオーバーホール中だったのでとりあえずその手伝いでメタルのすり合わせ等が仕事となったがこれが結構いい勉強になった。こうしてなおしたトラックで運転練習をしたのだが校内を無免許で走るのだから今思えば乱暴な話である。



*戦前物のダットサン乗用車です。エンジンをオーバーホールしたりしていた

あまりに危険だと言うことで本館裏側の空き地に練習コースを作った。

ほどほど運転にも自信が持てたので県の免許試験場に出かけた。

当時は今のような自動車学校などなく、免許試験が練習のようなもので普通は10回くらいの受験で合格というのが相場だった。

そんなわけでまずは肝試しと出かけたところ意外にも一発合格！以後学生課の要望で運転作業に使われだした。本校と分校(当時は古出来町に分校があった)間のバスの運転とか、トラックでの資材の運搬などである。

清水学長お出かけの運転手をしたこともあったが、未だに記憶に残るのはある日学長を乗せて帰校したとき、すでに夕刻だったので学長が校門前で「ここから帰るからおろしてください」と言われたのである。お宅までお送りしますと言ったら「ここからは私人ですから」と言われた。この公私峻別はその後社会に出てからの強い教訓となった。

同好会の「運転学校？」はその後も続き随分多

くの免許所有者が出来、幾分は清水学長のご希望にこたえることが出来たと思う。

余談になるが、昭和27(1952)年の夏、国体のヨット競技の県代表になったと学長に報告したとき、名大には良いヨットがあるが工大にはないと言ったところ事務局長を呼んで相談の結果1艇購入してもらえることになった。他の部には内緒だよと冗談半分にくぎを刺されたが随分ありがたい話であった。

逆に残念だったのは翌27(1952)秋のころ学長に呼ばれ「本学にもブラスバンドが欲しいが一肌脱いでくれ」と言われ、同好者を集め楽器を買ってもらってあてがうところまで行っただが、残念ながらその後立ち消えになってしまったことだ。

私はその年卒業し、後任のキャプテンは電気科の平林和夫氏(E30)、またそのあとのキャプテンは機械科の有賀道夫氏(M29)で有賀氏のころに晴れて自動車部になったとか聞いている。

さて自動車部の現況はと思いつい先日北千種の恒和寮の敷地にある部のガレージを尋ねてみた。数人の部員が整備や修理を楽しんでいる様子だった。現在部員数12名で主にジムカーナをメインとして活動しているとか。下の写真はその時のスナップです。

同部に関しては大学のHPと同部のHP

<https://ac-406motorworks.club.nitech.ac.jp/kotei/>

を参照してください。なお、オーストラリア3000km縦断レースに挑戦しているソーラーカー部は別組織です。



自動車部のガレージ前 (2023年10月15日撮影)

ホットライン

第2回「名工大歴史館」開催 約300人が来館

昨年に引き続き工大祭の期間中に「名工大歴史館」を開催しました。今年から大学の卒業生連携室との共催となり、大学職員の協力も得ての開催となりました。歴史館では、名工大の歴史展示、スライドの自動上映、ロボコンの実機展示などを行いました。

今年の工大祭は、コロナによる入場制限もなく、名工大歴史館にも高校生、学生、父母、卒業生など多くの方が来館されました。当日は、経友会、巴会の総会、S53電子工学科卒の同窓会などもあり、団体で訪れる卒業生も多数おられました。

来館された名工大監事は、開校当時の牧野文部大臣の談話にある「単に教育ある人物といふに置かずして品性人格を主眼とせらるゝにあり」（明治40年5月17日名古屋商業会議所）を読まれ、現在にも通用する内容だと称賛されました。また、「ごきそ」に掲載された開催案内を見て、久しぶりに大学を訪れたというS24名工専土木科卒の安藤實さん（94歳）は、提示物の「復興資金募集要項」（昭和21年8月31日）を見て、戦災で焼失した校舎の再建資金を得るため、学生たちが物資販売を行ったところの思い出を語ってくださいました。

事務局としては、「ごきそ」などでお知らせするとともに、工大祭参加者に2日間で1,000枚以上のビラを配布するなど、宣伝に努めました。2年続けて多数の来館者があり、名工大の歴史展示についての確かなニーズが確認されましたので、来年度以降の企画に向けて、さらに検討していきたいと考えております。



名工大歴史館（校友会館内）



展示物の閲覧の傍ら、休憩をとる来館者



展示に見入る来館者



思い出話に花が咲く S53電子工学科卒の同窓生



「ごきそ」の開催案内を
みて来館された
S24名工専土木科卒
安藤 實さん（94歳）



工大祭当日、学内案内を
するスタッフ

第61回工大祭への協賛

工業会本部並びに名古屋支部では、在校生への支援の一環として、11月18日・19日の2日間にわたって開催された第61回工大祭に協賛いたしました。

これに伴って、11月2日、工業会本部事務室にて、横山理事長及び仁科常務理事と小山名古屋支部長より、工大祭実行委員長の中坪壮祐さんへ、協賛金の目録をお渡しいたしました。

工業会本部並びに名古屋支部からの協賛金は、工大祭の運営に役立てていただけたそうです。

記：名古屋工業会事務局



目録授与
(左から、横山理事長、中坪実行委員長、仁科常務理事)



目録授与
(左：小山名古屋支部長)



第7回 鶴桜会交流会開催報告

1. 日 時：2023年10月21日（土）12：00～14：00
2. 出席者：OG19名、女子学生10名、名古屋工業会3名 合計32名

名古屋工業大学女性同窓会「鶴桜会」第7回交流会を開催しました。本年は新しく改修された2号館11階ラウンジにて対面の昼食交流会を開催し、OGや現役女子学生など計32名が参加しました。

はじめに、名古屋工業会横山理事長のご挨拶と乾杯のご発声で交流会がスタートしました。続いて、鶴桜会会長の武藤敦子准教授より挨拶と総会が行われました。

鶴桜会会員である中部電力ミライズ株式会社の石川民子執行役員によるミニ講演「ロールモデルはスーパーマンではない～キャリアを磨くためにお伝えしたいこと～」の後、参加者全員の自己紹介が行われ、参加者同士が世代を超えて親睦を深めました。

鶴桜会交流会は「1年に1度、鶴桜会で会いましょう」をスローガンとし、世代や専門分野を超えて、「名工大で学んだ女性」という新しい繋がり、会員同士のゆるやかな連携・交流を深めるための仕組みづくりとした交流の場です。これからも、毎年10月に昼食交流会を開催予定です。多くのOGの皆様のご参加をお待ちしております。

（鶴桜会提供記事）



集合写真



横山理事長による乾杯



石川民子さんによるミニ講演会

新聞記事コーナー

中日新聞

掲載日	刊	面	氏 名	所属学科等	記事内容
2023/10/14	朝	14	名古屋工業大学	—	名工大と名大院の合同シンポジウムにて医工連携について発表
2023/10/17	WEB		野球部	—	愛知大学野球 名工大野球部が2部残留決定
2023/10/18	朝	13	ボート部	—	中部学生新人競漕にて男子舵手付きフォア1位、ダブルスカル3位、女子シングルスカル3位
2023/10/20	朝	26	小畑 誠	副学長	名古屋工業大学長に小畑氏（2024年4月から）
2023/10/23	朝	8	アメリカンフットボール部	—	アメリカンフットボール東海学生リーグ（14日）岐大25-13名工大
2023/10/26	WEB		北川啓介	社会工学専攻	「中部ライフガードTEC 2023」にて備蓄用インスタントハウスの展示・体験協力
2023/10/31	飛騨版		高木 繁	生命・応用化学専攻	飛騨神岡高校で講座「ひだかみアカデミア がくしゃへGO！」が開催され、高木繁教授が基調講演
2023/11/3	朝	6	辻田義治	名誉教授	秋の叙勲（11/3）瑞宝中綬章
2023/11/14	朝	14	名古屋工業大学	—	「車載ネットワーク」の新規格づくりを産学官で進める名工大は、大同大と包括協定を締結
2023/11/16	朝	7	SAZO	—	スタートアッププレゼンテーションイベントにて、SAZO（名工大学生らのスタートアップ企業）が最優秀賞
2023/11/18	朝	17	須藤美音	社会工学専攻	アートフルキャンパス事業の紹介
2023/11/22	WEB		糸魚川文広	電気・機械工学専攻	12月18日（月）TECH Biz 連続セミナー第2回「金型の高精度・微細加工技術の最前線」開催案内
2023/11/24	WEB		麓和善	名誉教授	妙成寺（羽咋市滝谷町）の国宝化を目指し、市民らが見学ツアーを催し、麓名誉教授が詳しく解説
2023/11/25	朝	14	河田克博	名誉教授	叙位叙勲（24日）従四位瑞宝小綬章（2023/10/29死去）
2023/11/28	夕	6	SAZO	—	SAZO（名工大学生らのスタートアップ企業）を10月に立ち上げ
2023/11/28	WEB		鈴木弘司	社会工学専攻	「建設技術フェア2023 in 中部/中部ライフガードTEC2023」にて、鈴木弘司 教授らが講演予定
2023/11/29	朝	13	名古屋工業大学	—	講演会「留学のすゝめ」を名工大で開催、名工大卒業生らも講演
2023/11/30	朝	4	春日敏宏 内匠逸	生命・応用化学専攻 情報工学専攻	中日産業技術賞委員

情報 ネットワーク

2024年度 大阪支部総会報告

2024年度の大阪支部総会は、10月7日(土)午後2時から中央電気倶楽部にて、Web会議併用で開催されました。今年度は、新型コロナの感染が落ち着いたこともあり、会場出席44名、Web出席18名と昨年度より会場参加者が倍増いたしました。

来賓として河邊伸二学長特別補佐、横山裕理理事長、仁科健常務理事、高柳誠兵庫支部長にご臨席いただき、寺田憲二氏(AH03)の司会のもと、堀口大輔大阪支部長の挨拶で始まりました。

2023年度の実績報告では、新型コロナが落ち着いたもののWebを積極的に活用し、役員会2回、幹事会3回、総務委員会6回を開催し各科の連携を深められたこと。事業委員会では、工大会ゴルフ・見学会・歴史探訪の会でリアル活動が実施できたことや、支部と単科会で連携してコロナ前同様様々なイベントが共催開催できたこと。若手・女性部会による3回の交流サロンが開催されたこと等が報告されました。

2024年度も支部、単科会協力して、様々な機会、イベントを通して、卒業生の一層の交流を図っていききたいと決意表明がありました。

第2部は、株式会社竹中工務店 中島正人氏(AH09)に「阪神阪急梅田一丁目一番地計画(阪神百貨店建替え計画)の計画と実施について」施工時の苦労や先輩からの言葉を交えながら講演いただきました。また現在、中島さんが大阪万博リング西工区の作業所長をされていることから今話題の、2025大阪・関西万博「大阪万博リング西工区の計画と実施について」ご講演いただきました。ご講演は、若い方には是非聞いて頂きたい内容ばかりで、工業会へも若手の参加を増やしていかなければと再認識いたしました。

支部総会・講演会終了後は4年ぶりとなる懇親会を開催しました。懇親会も堀口大輔大阪支部長の挨拶で始まり、横山新本部理事長就任のお話や、各部会のアピール、自薦他薦の皆さんの近況報告を伺いながらの楽しい懇親会となりました。久しぶりに集まっの懇親会で皆さん会話もお酒も進むのをみて「リアル」はいいと改めて感じるひと時となりました。

最後は、全員そろっての集合写真撮影で今年度の支部総会はお開きとなりました。

記：竹内 健一(AH03)



支部総会：中央電気倶楽部



講演会：中島正人氏



支部総会：Web参加者



懇親会：集合写真

2023年度 東京支部総会報告

清々しい秋空のもと、11月11日(土)13時より、日本橋茅場町の鉄鋼会館にて東京支部総会が開催されました。

昨年は3年ぶりに対面による総会を開催しましたが、本年はさらにアルコールを交えた懇



小畑副学長

親会も盛大に行い、ほぼコロナ前に復した形となりました。会場には90名の卒業生が集まり、来賓として、名古屋工業大学から小畑誠副学長(最終学長候補者)、森秀樹名誉教授

(D52)、青木純教授、名古屋工業会本部から横山裕行理事長(K49)にご出席いただきました。

13時から開始された東京支部総会は、総会・特別講演会・写真撮影・懇親会の順序で進行了しました。

まず総会では、浅井支部長(E58)の挨拶のあと、ご来賓の小畑副学長と横山理事長からご祝辞と大学および名古屋工業会の近況についてお話をいただきました。浅井支部長から



横山理事長

会務報告、会計報告、会計監査報告を行い、拍手をもって承認されました。

続く特別講演会は、公益財団法人 核物質管理センター理事長の下村和生先生(M48)による「科学技術の発展と原子力開発・利用」です。下村先生の国際機関等における豊富なご経験をも



浅井支部長

とに、原子力の平和利用と国際機関の果たすべき役割、そして地球環境の持続的な発展と国際平和をいかに維持するかについて、熱意を込めて大変わかりやすくお話しいただきま

した。

ご来賓を囲んで出席者全員の写真撮影を2回に分けて行ったあと、原田総会WGリーダー(E53)による開会の挨拶で懇親会を開始しました。

名工大関係のビデオがプロジェクターで映し出されるなか、2019年度以来の懇親会は、和気あいあいとした大変賑やかなものとなりました。席上、井上憲二さん(E44)による尺



下村先生

八、そして滝義宏さん(D39)によるハーモニカの演奏が披露されました。また出席者中の最高齢で今年101歳となられた小関健二さん(M18)には、昨年に引き続いて大変元気なユーモアに溢れたご挨拶をいただき、さらに出席者中で最年少の令和3年卒業CE会の加藤諄さんに明るく若々しい抱負を述べていただきました。

最後はハーモニカの伴奏で学歌を斉唱し、戸澤副支部長(M55)の音頭で三本締めを行い、来年の再会を約してお開きとしました。

記：上小澤哲人(D56)、大久保智明(D57)



全体写真1



全体写真2

令和5年度 静岡支部定期総会報告

令和5年9月23日(土曜)に静岡市の中島屋グランドホテルにおいて、令和5年度静岡支部定期総会及び懇親会を開催しました。工業会本部から名和理事にご臨席を賜り、出席した支部会員19名をあわせ20名の総会・懇親会でした。

久々の総会でしたので、令和元年度から令和4年度までの事業報告と決算報告をまとめて行い、令和5年度の事業計画と予算案、令和5年度からの支部役員についても、出席者の皆様にご承認いただきました。

総会終了後、懇親会に移る前に参加者全員で記念写真を撮りました。

懇親会では参加者全員のスピーチが行われましたが、質問なども相次ぎ、対面での開催ならではのにぎやかな懇親会となりました。

記：静岡支部長 石塚基一郎(C54)



令和5年度 九州支部総会報告

令和5年10月14日(土)、ステーションホテル小倉7F、「八くら」に於いて名古屋工業会九州支部総会を開催し、15名の参加がありました。

最初に丹生特許商標事務所弁理士 丹生哲治氏(電子S53卒業)に、「各知財権(特許、意匠、商標、著作権等)の制度について」と題して講演していただきました。

総会は、九州支部の活動報告、会計の報告を行いました。

懇親会では、先ず来賓出席いただきました横山裕行理事長の挨拶の後、歓談、近況報告、学歌を歌い2023年度の総会を終えました。

卒業生による講演会は、興味ある議題で質問も沢山出て盛会でした。

歓談では前半は牟田さん・木原さん・泉さんに自己紹介をして頂き、後半は席を自由に交代していろんな方との会話が弾みました。

記：九州支部長 吉村 尚(A50)



名古屋工業会大阪支部・京都部会共催

「京都 壬生・島原」と「角屋 及び 梅小路公園」散策会 報告

日 時：2023年9月30日(土) 10:00 ～ 16:30

参加者：10名

内 容：新撰組壬生屯所(八木家)、島原地区
角屋もてなしの文化美術館、
梅小路地区 散策

報 告：

- ・大阪支部と京都部会共同で実施した、京都「壬生・島原・角屋」と「梅小路公園」の秋の散策会のレポートです。
- ・参加者は10名、男性8名、女性2名です。秋とは名ばかり、結構な暑さでした。
- ・まずスタートは、阪急四条大宮です。
- ・第一目標は壬生寺です。その途中に新撰組の壬生屯所跡の八木家があります。ここは、当時の家屋がそのまま保存されており、刀傷も残っています。ここで案内人の名調子に聞き惚れて、江戸時代へ。お茶とお菓子が振る舞われました。
- ・すぐ隣が壬生寺で、新撰組関係者の墓もあります。

- ・ここから、しばらく南に歩いて島原へ向かいました。昔の遊郭が保存されており、見学ができます。
- ・その前にランチを、魚屋さんが経営する「宮武」で食べました。えつ、これで1000円という豪華ランチでした。
- ・昼から、島原大門を見て、角屋(すみや)もてなしの文化美術館を見学です。
- ・ここは、人数制限があり、予約が必要です。学芸員さんについて、まず1階の台所、2階の座敷を回ります。各座敷ともモダンと粋を感じさせる素敵なものでした。
- ・そこからは、さらに南に下り梅小路に公園に入りました。ここで、自由時間です。京都鉄道博物館、植物園などを見学しました。
- ・最後は懇親会で、近くのホテルにあるカジュアル天ぷら店にて行いました。懇親会は久方ぶりなので、各人での話が弾みました。
- ・そして18:30ごろJR梅小路西駅にて解散しました。結構歩いたので、お疲れ様でした。

記：西川 嘉一(G50)



新撰組屯所八木



島原大門



壬生寺にて



角屋 松虎図



角屋にて

岐阜支部 令和5年度 研修会の報告

開催日：令和5年10月22日(日)

参加者：22名

内 容：工学的、社会的に貴重な土木遺産の琵琶湖疏水と、これに隣接した三井寺や南禅寺を視察し、先人技術者のなした業や日本の文化に触れつつ、参加者の懇親を深めた。

はじめに

今年度よりC科が事務局となり、今回は「土木遺産」を視察する研修を企画しました。

3箇所を巡るため、早めの集合となりましたが、昭和31年卒から平成10年卒までの会員とその同伴者を合わせた22人が参加しました。

車中では、はじめに各務支部長があいさつし、続いて幹事から行程の説明や研修先の紹介を行い、一路、滋賀県大津市へ向かいました。

1. 三井寺 視察

最初の視察地である三井寺は、1200年余の歴史を持つ、天台寺門宗の総本山です。

荘厳さが漂う中、起伏の多い通路を1時間余り歩き、国宝の金堂や、天智・天武・持統天皇の産湯に用いられたという三井の霊泉などの重要文化財、さらに西国三十三所観音霊場の第十四番札所を、熱心に視察しました。

2. 土木遺産 琵琶湖疏水 視察

令和3年度選奨の土木遺産「琵琶湖疏水(第1、第2、分線ほか)」のうち、第1疏水の天津から蹴上に至る区間を、船や徒歩で視察しました。

琵琶湖疏水は、明治の東京遷都によって人口が減少し産業が衰えた京都の復興に向けた大事業で、灌漑、水車動力、舟運、防火用水、上水道等の目的で建設が計画されました。

また、この工事の主任技師には、工部大学校(現在の東京大学工学部の前身)を卒業したの田邊朔郎氏(当時21歳)が抜擢されました。

工事が人力中心の時代に、長さ2,436mのトンネルという難関があり、このような工事を経験した技術者等がない中で、初めて竖坑を利

用したトンネル掘削工法を採用するなどの技術的な工夫を行い、仕事の後には技術者を養成するなどの努力があったと伝えられています。

また、水車の動力に用いる計画を水力発電に変更する決断により、中小工場の機械化が大いに進み、日本初となる電気鉄道の営業もスタートするなど、京都の経済や産業などの発展と人々の生活文化の向上に大きく貢献したということです。

全体として西洋風の意匠が採用された歴史を感じる各施設は、こうした建設への取組や土木施設が社会に果たしてきた役割などを考えると、また一層の見ごたえを感じられました。

3. 南禅寺 視察

琵琶湖疏水のインクラインを歩いた後、最後に散策した南禅寺は、1291年に開かれた臨済宗南禅寺派のお寺です。

入り口近くには重要文化財の三門が、奥へ進むと、赤煉瓦のアーチを思わせるような水路橋の水路閣、国宝の方丈などがあり、多くの観光客でにぎわう中、限られた時間ではありますが、散策できました。

おわりに

天候にも恵まれ、参加者各位のご協力のおかげで、かなりの距離と時間を歩く研修も、無事に終えられました。

記：岐阜支部幹事 岩田 靖(C59)



三井寺の仁王門前にて

2023年度 名古屋支部見学研修会開催報告

名古屋支部では、11月11日（土）、2023年度名古屋支部見学研修会を開催致しました。

今回は、某TV局の大河ドラマにちなみ、徳川家康公ゆかりの地である岡崎・浜松方面を行先とした見学研修会で、会員及びそのご家族を含め49名の方々にご参加いただきました。

午前の岡崎では、岡崎城にて様々な時代に築かれた石垣などを見る城郭めぐりから復興天守閣に登るガイド付き見学のあと、大樹寺にて岡崎城を臨むいわゆるビスタラインの起点となる三門や歴代將軍の等身大の位牌などが展示された宝物殿などを見学し、さらに、近代名古屋を作った建築家と言われる母校ゆかりの鈴木禎次（名古屋工業大学の前身である名古屋高等工業学校建築科教授）が設計した岡崎信用金庫資料館（旧岡崎銀行本店）を当館のガイドと名工大夏目准教授の案内で見学しました。岡崎での見学は、バスガイドさんの言葉を

借りれば「大人の修学旅行」さながらの、大変中身の濃い研修会となる一方で、勉強熱心すぎて？出発予定時刻を30分も超過してしまいました。

午後は、浜松に移動してのホテル昼食の後、浜松大河ドラマ館にて大河ドラマの世界観にひたるひと時を過ごしていただいた後、当地のお土産で有名なうなぎパイを製造しているうなぎパイファクトリーにて簡易な工場見学とお買い物を楽しんでいただきました（到着時刻が遅くなったこともあり、品物が売り切れ続出でご迷惑をおかけしました）。

今回の見学研修会は、ご家族連れが10組とアットホームな雰囲気でもあり、開催後のアンケートでは5点満点中4点以上が94%を占めるなど好評を博し、参加された皆さまには近場の歴史文化に触れられる旅になりました。

記：宇佐美 智伯（A⑥）



岡崎城 城郭めぐり



岡崎城 天守閣



大樹寺 三門



岡崎信用金庫資料館 外観



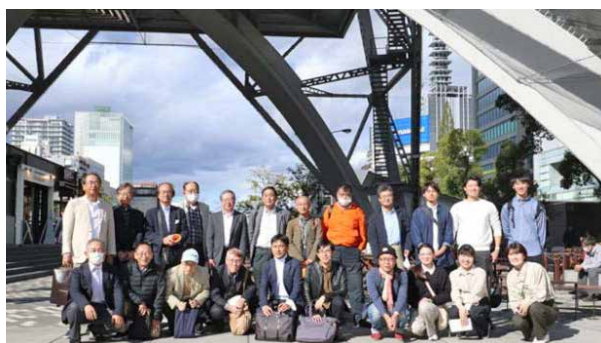
ホテル昼食の様子



浜松大河ドラマ館

中部電力MIRAI TOWER見学会報告

まだ、暑さが残る秋の気候から一気に風が冷たくなった2023年10月21日に名古屋工業大学ごきそ技術士会主催の中部電力MIRAI TOWER (旧名古屋テレビ塔)の見学会が名工大社会工学科 建築・デザイン分野の夏目研究室 夏目欣昇准教授と大学院生2名、学部生4名、日本技術士会中部本部2名を含む総勢22名の参加で実施された。



中部電力MIRAI TOWERでの記念撮影

本見学会には名古屋テレビ塔株式会社の御協力の下、名古屋テレビ塔の免震改修を担当した株式会社竹中工務店の下野耕一様(名工大OB)、株式会社日建設の榎原啓太様をお迎えして免震改修工事の設計ならびに現地施工に関する貴重なお話をいただいた。また、名古屋テレビ塔株式会社代表取締役の大澤和宏様から重要文化財となった中部電力MIRAI TOWERの歴史についてご説明いただいた。



名古屋テレビ塔株式会社 大澤社長のご説明

テレビ塔は日本で最初に建設された集約電波鉄塔で、2023年に69年を迎えた。

名古屋工業大学ごきそ技術士会

「塔博士」と呼ばれた建築家、内藤多伸博士の設計で建設当時、戦後復興のため鋼材が不足する中、軽量設計と最新の耐風理論が導入された。その地下には建設時、既に地下鉄(現在の名城線)の計画が決まっていたため深掘基礎を採用できなかった。そのため地上に鉄筋コンクリート造のアーチが設置されるなど、独特のデザインとなった。



塔を支えるアーチ

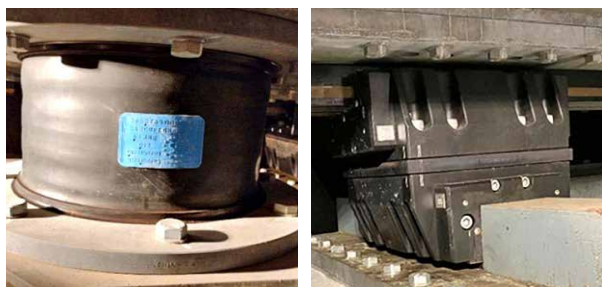
2018～2020年度に実施された名古屋テレビ塔全体改修工事においても様々な制限を受ける中、塔体の裾広がりの構造のために柱脚が常に広がろうとする力を受けるべく、鉄骨タイビームと張力制御装置を利用した構造が新設された。



新設した鉄骨タイビーム (2019年11月撮影)

さらに四つの柱脚の下に直動転がり支承、積層ゴム支承、耐風ストッパ、オイルダンパ4種類の合計7台の装置からなる免震システムを配置している。

本見学会では通常は見学できない一つの柱脚



積層ゴム支承(左)と直動転がり支承(右)

の免震ピット内に設置されている免震システムを名古屋工業大学の学生への特別の配慮をもって見学させていただいた。ヘルメットを着用し、一人ずつマンホールから地下5メートルの猿梯子を降り、免震システムを直接確認した。危険を伴う見学でもあったため、事故なく終わられ一同安堵した。

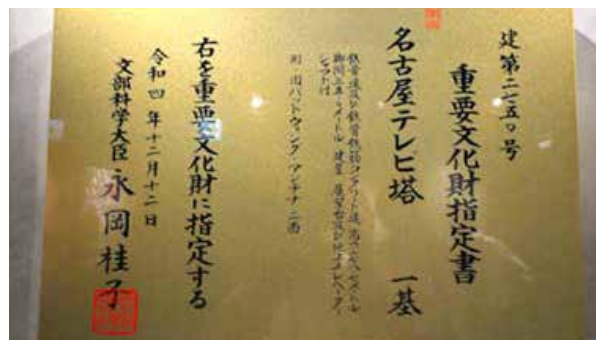
その後、夏目研の学生と健脚の技術士の方々は外階段を使い、1階から最上階の展望台まで急な階段を登り、徐々に高度を高めることで変化を見せる名古屋の景色を楽しんだ。また、他の技術士の方々も人が開閉する日本で唯一残る三菱電機製エレベータにて最上階展望台まで上がり、中部電力MIRAI TOWERからの眺望を同じく、楽しむことが出来た。

テレビ塔の地下にはダイハツディーゼル製の



国内に唯一残る扉が手動操作のエレベータ

非常用発電機がコンクリートブロックで封印された開かずの間に使命を終えそのまま眠っている。これもまた、貴重な産業遺産の一つである。中部電力MIRAI TOWERは「保存と活用」を実践する文化財として、また引き続き名古屋のランドマークとして、地域活性化に重要な役割を果たして行くことになる。



重要文化財指定書のレプリカの展示



テレビ塔建造当時の銘板

貴重な文化財の見学の後は夏目研の学生を交え、参加者有志にて懇親会を開いた。学生の中には創造工学教育課程のPBL演習を受講した人もおり、同演習に実務型教員として参画した技術士との新たな出会いだけではなく旧交を温めるなど楽しい時間を過ごした。

【謝辞】

本見学会は名古屋テレビ塔株式会社代表取締役 大澤和宏様、株式会社日建設計 エンジニアリング部門 榊原啓太様、株式会社竹中工務店 名古屋支店 技術部 下野耕一様ほか、多くの関係される皆様のご協力のおかげで実現致しました。皆様に御礼申し上げます。

令和5年度 九州支部見学会報告

2023年8月31日(木)名古屋工業会九州支部見学会を開催し、10名の参加がありました。

新型コロナウイルスの5類移行に伴い九州支部の活動も再開しました。その初めに、今回は名工大の卒業生も多く入社されている八幡西区黒崎にある安川電機さんの工場見学会を開催しました。

安川電機は、1977年に国内初の前電気式産業用ロボット「MOTOMAN (モートマン)」を開発しました。以来、溶接・組立て・塗装・ハンドリングなどの作業を自動化するロボットを次々に開発し、国内外の産業用ロボット市場をリードしています。

展示施設「安川電機みらい館」と「ロボット第一工場」(小型の産業用ロボット組立て工場)を見学しました。

「安川電機みらい館」では、会社概要の説明の後、体験エリアではロボットの特性である早さと正確さ・高効率なもののづくりをゲームの中で体験出来ました。また七軸垂直多関節ロボットも展示してあり、狭いスペースの中でも物に干渉することなく運ぶ作業も見ることが出来ました。

「ロボット第一工場」では、人とロボットの共同作業によるMOTOMANの組立てを見学しました。110分のコースでした。

次に門司港レトロ地区に移動し名物の焼きカレーを頂きながら談笑し14時半に解散しました。

記：九州支部長 吉村 尚(A50)



九州支部 熊本城観光旅行報告

2023年11月19日(日)、九州支部では今年初めての観光旅行を開催し、6名の会員が参加しました。

復旧工事期間中の今だからこそ見ることが出来る熊本城の姿を、観光ボランティアガイドに案内していただきました。

当日は、城彩苑→特別公開南口→天守閣内部→特別公開南口→城彩苑の順で見学しました。お天気も良くボランティアガイドさんの熱心な説明に150分を費やしました。

熊本城には行ったことがあるけど、ガイドをして貰うとまた違った目で見られて良かったと思います。

天守閣の改修工事は終わっていましたが、宇土櫓他石垣の改修に2030年までかかるそうです。

昼食は、熊本名物料理を舌鼓しながら、名古屋で学科の同窓会に行かれた大橋さんの名古屋工業大の近況及び昔の話で盛り上がりました。

記：九州支部長 吉村 尚(A50)



2023(令和5)年度 尾張支部見学会報告

と き：令和5年11月30日(木)

ところ：名古屋城

名古屋工業会尾張支部は、令和5年(2023年)11月30日(木)に11名の参加者にて、名古屋城の社会見学会を実施しました。

当日は、名古屋城東門に集合後、二之丸、閉鎖中の天守閣と回り、最後に本丸御殿に入場というルートで見学しました。

老朽化で閉鎖中の天守閣は、木造化が計画されている事をご承知の通りです。木造の天守閣が復元可能な理由は、名古屋高等工業学校(現名古屋工業大学)の城戸久名誉教授による昭和7年～12年の実測調査資料が残っているためと伺いました。また木造復元の有識者会議メンバーに、多くの名古屋工業大学の先生方が参画されているとの事でした。卒業生として誇りを感じ、天守閣をバックに記念撮影をしました。



名古屋城見学後、最寄りの名古屋能楽堂内で昼食を頂き、参加者が自己紹介・近況報告を行い、親睦を深めた後に解散しました。

今回、尾張支部のD46卒で名古屋城ボランティアガイドであります下條義康様に案内をお願いしました。下條様から、各見どころの詳細な説明を頂戴し、一般の見学者より中身の濃い見学ができました。改めて御礼申し上げます。

記：名古屋工業会尾張支部副支部長
小久江 智之(M53)

第135回 名工大ごきそ会報告

第135回名古屋工業大学ごきそ会は、令和5年10月6日(金)名古屋からのアクセスが便利な豊田市内の藤岡カントリークラブにて11名の参加を得て開催いたしました。当日は朝から快晴の秋空の元爽快地にプレーをすることができました。

藤岡カントリークラブは自然を活かした長いホール、深いバンカー、長い池越えなど、バリエーションが豊かであり、高齢化が進むごきそ会には厳しいコースでありました。

この中で優勝は伊佐治武さんで、グロス90、ネット73の成績でした。伊佐治さんは的確なプレーで、ベストグロス賞、バーディー賞、ニアピン賞と圧倒的な強さを発揮されました。とても80歳以上とは思われない正確なプレーをされました。準優勝者は泉地正章さんで、グロス90、ネット74の成績でした。第3位は森井敏彦さんで、グロス101、ネット78の成績でした。BB賞は伊藤哲夫さんが獲得しました。特別賞として、ニアピン賞は伊佐治さんの他に岡田さん、伊藤さんが獲得しました。汗闘賞は伊藤さん、大波賞はメンバーの加藤さんで、唯一人後半にスコアアップをされました。

プレー後の懇親会では、恒例により優勝した伊佐治さんからご挨拶をいただきました。レッドティーの伊佐治さん、ゴールドティーの泉地さんが、同じ組で競い合うことができたことが勝因に結びついたとのことでした。チーム組み合わせが幸いしたようです。

次回は、来年1月9日(火)平岡様のご紹介で品野台CCでの開催を予定しております。

ごきそ会では年4回、県内のゴルフ場でコンペを開催しています。ご興味のある方は幹事の山田(E-mail:kazuoy50@hm10.aitai.ne.jp)までご連絡ください。

記：山田和男(E47)



名工会東京支部 第257回ゴルフ大会報告

漸く秋らしくなった11月8日(水)今年最後の恒例のゴルフ大会が成田空港近くの千葉県佐倉市の佐倉カントリー倶楽部で盛大に行われました。先回とは打って変り快晴の中、美しい緑のフェアウェイは維持されていましたが、グリーンはやや芝が薄くなりパットが難しい状況でした。キャディさんはここでも高齢者が多く、人材不足はここでも感じられる環境です。このような中、大会の主役は支部会役員でもある津田卓美さん一人の為、つまり「津田DAY」でした。優勝(48:48)はもとより、ニアピンはpar 3、4か所のうちバーディを含む3か所、水平賞と賞品11のうち5賞を獲得しました。新記録でしょう。お陰様でパーティーは話題豊富な楽しいひと時でした。

次回は2024年3月26日(火)本厚木CCで開催予定です。ここは桜の木々がバランスよく各コースに配置され、しかも桜の大きが多く木々の姿も美しい場所です。どの会員もこの桜については開催前に美しさを話題にしています。

新会員募集：年間4回、すべて名門コースで開催。ご参加をお待ちしています。

連絡先：

津田卓美(M39) nogitsuda3110@gmail.com

記：第257回幹事 加藤精也(D36)

馬嶋 建(A40)



後列左から：Mb49 西口義久、A40 三好修、B45 林利信、M39 津田卓美、B48 石川正

前列左から：A40 馬嶋建、A40 篠原克彦、D35 濟木良亮、D36 加藤精也（敬称略）

あなたも「ごきそ」の表紙を飾ってみませんか？

名古屋工業会誌「ごきそ」表紙掲載写真募集

一般社団法人名古屋工業会（名古屋工業大学全学同窓会）では、会誌「ごきそ」を幅広い年代の方が交流できるツールとして活用いただけるよう、同窓生の皆様から随筆や紀行などの原稿と共に、表紙に掲載する写真の投稿をお待ちしております。ご投稿いただく写真や写真データ(JPEG)は次の要領でお願い致します。

- * 未発表の作品で、他への応募予定のないもの
- * プリント写真ならば2 L判程度の大きさ、写真データならば左右のピクセル1,000以上
- * 構図は縦長（縦位置）を希望（横長の場合はトリミングさせていただきます）
- * 作品のタイトルと簡単な説明、撮影者の氏名（卒業学科・卒業年）及び連絡先を明記
- * 国立大学法人の同窓会誌のため政治色や宗教色を感じさせるものは避けてください。
- * 肖像権が生ずるような人物が特定できるものは避けてください。
- * 採用の写真は編集会議で諮ります（投稿＝掲載とはならないことをご了承ください）
- * 表紙に採用された場合は薄謝（クオカード）を進呈いたします。

【送り先】〒466-0061 愛知県名古屋市昭和区御器所町字木市29番

国立大学法人名古屋工業大学 校友会館内 一般社団法人名古屋工業会

E-mail：gokiso@lime.ocn.ne.jp



謹賀新年

2024年元旦

名古屋支部

〔2023・24年度主担当単科会：光鯨会〕

支部長 小山 裕 康 A54
庶務幹事 宇佐美 智 伯 A⑥
会計幹事 夏 目 欣 昇 A⑤

〔単科会 代表連絡幹事〕

C E 会 古 橋 伸 幸 A⑧
光 鯨 会 井 澤 知 旦 A51
巴 会 北 村 憲 彦 M56
電 影 会 三 宅 正 人 E60
双 友 会 吉 木 満 W56
緑 会 伊 藤 龍 美 D60
名 窯 会 西 部 徹 Y③
名 晶 会 佐 藤 善 昭 K⑤
計 測 会 野 村 正 裕 F55
経 友 会 仁 科 健 B50
情 友 会 犬 塚 信 博 J62

事務局 〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町字木市29番
国立大学法人名古屋工業大学 校友会館内
一般社団法人名古屋工業会 ☎(052)731-0780

東京支部

支 部 長／理事	E58	浅井 英利
副支部長／代議員	C52	入矢桂史郎
副支部長／代議員	M55	戸澤 宏一
代表幹事／代議員	A59	鹿島 孝
相 談 役／顧問	D41	阿部 完二
顧 問	D35	濟木 良亮
顧 問	D38	三山 雅敏
顧 問	D51	松居 和治
監 事／代議員	B46	飯沼 義昭
監 事	F52	小川 一郎
幹 事／代議員	K53	北村 明弘
幹 事／代議員	D57	大久保智明
幹 事／代議員	E⑬	三浦 太朗

幹事	幹事
C44 川島 泰	M47 松浦 明人
C48 榎尾 恒次	M50 福間 洋二
C56 名倉 健二	M53 櫻井 昭男
C57 永田 尚人	M55 橋本 和隆
C57 牧 哲史	Es50 丸山 実
C58 福武 毅芳	E53 青木 高之
C⑭ 佐田 崇	E53 原田 幹寿
C⑭ 佐山 友美	A59 鈴木 孝彦
D45 鈴木 満雄	A61 工藤 利昭
D54 刑部 道博	F45 松永 新
D56 上小澤哲人	Y40 日沖 昭
G62 中村 理恵	W43 印藤 嶠
D① 馬場 順一	B49 齊藤 靖範
K50 細谷 佳弘	B61 村田 康史

北海道支部（北鯨会）

支部長 山 平 英 夫 (C43)

代議員 佐 川 正 人 (C53)

三 河 支 部

支部長 岩 田 忠 三 (M59)

幹 事 五 島 大 樹 (Ma⑩)

東 北 支 部

支部長 羽 鳥 明 満 (C57)

尾 張 支 部

支部長 伊 藤 美 保 (D44)

令和6年度(2024年)支部総会は名古屋文理大学
文化フォーラムで4月13日(土)に実施する予定です。

静 岡 支 部

支 部 長 石 塚 基 一 郎 (C54)
副支部長 山 岡 宏 司 (F60)
代 議 員 向 坂 直 久 (Es60)
代 議 員 玉 木 利 幸 (C52)

静岡支部役員一同

岐 阜 支 部

支 部 長 各 務 剛 児 (C53)

代表幹事 浅 野 一 郎 (C54)

幹 事 桐 井 光 人 (C59)

幹 事 岩 田 靖 (C59)

大 阪 支 部

支部長 C59 堀口 大輔
副支部長 *E47 川越 英二
副支部長 *G50 西川 嘉一
副支部長 *M51 坪田 博隆

総務委員長 *A59 小山 明
事業委員長 *E47 川越 英二 同副委員長 *G50 西川 嘉一
会員増強委員長 *M51 坪田 博隆
若手・女性部会長 *M51 坪田 博隆
地方部会長 *G50 西川 嘉一 同副部会長 A55 宮本 和則
技術士部会長 D57 出口 義国 同副部会長 MH05 岡田 正史
財務委員長 *A59 小山 明 同副委員長 G57 竹村 邦和
単科連携委員長 *M51 坪田 博隆
監 事 W48 奥村 茂樹
単科会支部長 C61 渡辺 尚夫 単科会支部長 Y44 川島 謙
単科会支部長 A57 田邊 太一 単科会支部長 K52 高岸 成典
単科会支部長 M45 掛田 健二 単科会支部長 F55 坂尾 健司
単科会支部長 *E47 川越 英二 単科会支部長 B50 廣島 清剛
単科会支部長 W40 西川 宣昭
単科会支部長 *G50 西川 嘉一 *は本部代議員

地方部会幹事

和歌山県 C57 東 照久 C53 向井直樹 SC17 井原誉文
奈良県 G50 西川嘉一 C52 福井広行 K47 横山 誠
滋賀県 C60 村尾俊道 M45 伊藤俊明
京都府 A55 宮本和則 M58 筒井真作

【本 部】

本部相談役 C44 木越 正司
本部相談役 A46 岡崎 格郎
本部参与 K40 河辺 彰

北 陸 支 部

支部長 竹田 敏洋 (B41)
代議員(富山幹事) 黒田 茂 (M47)
代議員(福井幹事) 吉岡 正盛 (B58)
会 計(石川幹事) 加戸孝太郎 (B49)

三 重 支 部

支部長 里 宏幸 (C56)

三重支部メールアドレス
Mail : miegokiso@nagoya-kogyokai.jp

岡 山 支 部

支部長 野村幸宣 (C54) 幹 事 浜野弘史 (Es56)
代議員 小倉俊彦 (A58) 佐々木秀臣 (SCH06)
代議員 虫明正博 (K59)
幹 事 中村浩巳 (A54) 事務局
岡本研作 (Y54) 〒701-0113 倉敷市栗坂467-22
齋藤 実 (C55) 虫明産業(株)内

兵 庫 支 部

支 部 長 高 柳 誠 C60 元・兵庫県庁
副支部長 當 舎 良 章 SC③ 兵庫県庁
西 川 芳 久 C49 元・神戸製鋼所
事務局長 青 野 信 尹 C46 元・神戸製鋼所
監 査 役 小 倉 正 裕 ZY③ 神鋼環境ソリューション
顧 問 楠 田 修 三 A50 元・兵庫県庁
幹 事 田 村 健太郎 CM②① 兵庫県庁
羽 倉 昭 二 C54 元・神戸市役所
西 川 芳 久 C49 元・神戸製鋼所
小 倉 正 裕 ZY③ 神鋼環境ソリューション
武 藤 崇 史 EJ② (一般・東) 三菱電機
丸 尾 哲 也 C46 (一般・西) 丸尾計画事務所
上 村 芳 大 M55 メディカロイド
植 田 康 之 M⑩ 川崎重工業

【本 部】

代議員 R5年度 當 舎 良 章 SC③ 兵庫県庁
同上 西 川 芳 久 C49 元・神戸製鋼所

広 島 支 部

支部長/代議員 大 田 一 夫 (C47)

副支部長 松 井 敏 郎 (Es55)

E-mail : ttk-ota@nifty.com

山 口 支 部

支部長 岸 田 潤 三 (C58)

代議員 川 上 為 夫 (W42)

山 陰 支 部

支部長 糸 賀 輝 穂 (C51)
代議員 湊 口 民 弥 (A52)
監 事 藤 井 俊 逸 (C58)
幹 事 森 下 博 (C56)
幹 事 石 飛 宏 治 (C53)

香 川 支 部

支部長 藤 川 智 (E52)

愛 媛 支 部

支 部 長 馬 越 陽 一 郎 (C58)

副支部長 加 藤 元 三 郎 (E47)

代 議 員 小 松 浩 樹 (CM29)



〒466-0035 名古屋市昭和区松風町三丁目4番地
ムツミヤビル2F

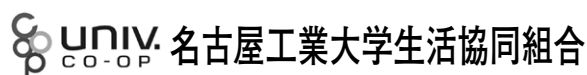
TEL(052)848-6148(代) FAX(052)848-6518番

九州支部 Challenge 50!

魅力ある春の見学会・秋の支部例会・ミニ旅行。
皆さまのご参加をお待ちしています。

お問い合わせは下記メールアドレスまで!

Kyusyugokiso@nagoya-kogyokai.jp



専務理事 山 本 昌 也

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL(052)731-1600 FAX(052)731-8726

E-mail : m-yamamoto@nitcoop.or.jp

ごきその発行部数、発行回数の検討について

本部では、2017年度からごきその電子化を進め、ホームページへの掲載を基本に発行してまいりました。しかし、ホームページの性格上、アクセスがない限り情報は伝わらず、みなさまの消息もつかみづらくなっております。このままでは、会員相互の関係も希薄になってくることを危惧しております。

このため、正会員全員に「ごきそ」をお届けし、会員のきずなをつないでいけるよう発行の部数、発行回数など検討しております。差し当たり、1・2月号は、新春号との名称を併記させていただきました。

みなさまのご理解をお願いします。

2024年度(令和6年度)

一般社団法人名古屋工業会会員総会開催予告

日 時：2024年5月25日(土) 午後 総会

場 所：メルパルク名古屋(予定)

(詳細は次号以降のごきそ、又は名古屋工業会ホームページに掲載します)

※当会会員の方で、叙位叙勲受章者は表彰しますので、事務局宛にご連絡ください。

「ネーミングライツパートナー募集」のご案内

～ 名古屋工業大学のネーミングライツパートナーになってみませんか？ ～

名古屋工業大学では、学内の施設等に愛称を設定していただく「ネーミングライツ事業」の募集を行っています。

- 社名をPRしたい!
- 名古屋工業大学の学生を採用したい!
- 産業界の未来を担う学生の教育研究環境向上に貢献したい!

と思われましたら、是非、本学のネーミングライツ事業をご検討ください。

施設見学も随時受け付けておりますので、
一度施設等をご覧になられてはいかがでしょうか？

詳しくは、ネーミングライツ事業ホームページでご確認ください。

https://www.nitech.ac.jp/release/naming_rights_facility.html



交流スペース



講義室



体育施設



学生実験室

東京支部「第66回 東京ごきそサロン」開催のご案内

今回は、税理士 秦邦昭様にお話して頂きます。奮ってご参加下さい。

開催日時：令和6年3月23日（土）14時00分～16時00分

開催場所：八重洲倶楽部（東京駅八重洲口地下）2、3会議室 電話：03-3275-0801

テーマ：ロマンのある職場～国税庁勤務を振り返って

講師：秦 邦昭（はた くにあき）氏（B46年卒）税理士

2019年（令和元年）叙勲「瑞宝中綬章」

1971年名古屋工業大学経営工学科卒、1972年国家公務員上級甲試験合格、1973年名古屋工業大学大学院経営工学科科修了。

同年国税庁入庁。その後、仙台国税局能代税務署長、日本貿易振興会米国ヒューストン駐在員、国税局で部長職等、国家公務員共済組合連合会経理部長、国税庁で法人税課長、事務管理課長、管理課長、金沢国税局長、国税庁徴収部長等を歴任。2008年に国税庁退職。その後も公益社団法人日本租税研究協会専務理事、千葉商科大学大学院会計ファイナンス研究科客員教授、東京都足立区代表監査委員等歴任。2021年東京都足立区審議会等委員。同年税理士登録し、現在に至る。

講演概要：国税庁は、租税法律主義を基本として、法と秩序を重んじる厳しい自立と常なる知見の習得と経験の蓄積の社会。国民一人一人の生活と財産に影響を及ぼし、国家の財政の根幹を支えるという公務員の矜持をいやが上でも認識させてくれる。税務署長、地方局部長、庁課長、地方局長、庁部長と生きがいのある国税庁の仕事。他省庁での多くの方々とのふれあい。米国生活での醍醐味とサミット関与の得がたい体験。金融混乱と年金運用での日々の奮闘。公益法人での行政、経済界、学者、実務家との連携協調時代、その一方大学院での院生との切磋琢磨。自治体での日々の刺激と緊張感溢れる貴重な経験。波乱に富んだ、やりがいと責任の伴った充実した毎日を送った50年、ロマンのある職場での50年。その根底にあるのは、大学、大学院で学んだもの。働ける喜び、学ぶ喜びが50年間続いたことに感謝。

会費：名古屋工業会正会員：無料、登録会員（旧非会員）：500円（飲み物は付きます。）

申込先：2月22日（木）までに下記の各科連絡幹事宛、電話、FAX又はE-mailでお申し込み下さい。各科連絡幹事は出席者名簿を2月24日（土）までに鈴木まで E-mail（spyn5cf9@canvas.ocn.ne.jp）によりご連絡下さい。

C：佐田 崇
e-mail: sadal9780415@gmail.com

A：鹿島 孝 Tel：090-6136-6937
e-mail: anigumax@gmail.com

M：橋本和隆
e-mail: kazucallfmt@nifty.com

Es：三浦太朗
e-mail: t.miura322@nitech.jp

D：馬場順一 Tel：090-3838-7608
e-mail: Junichi.Baba@nsg.com

W：印藤 嶺 Tel/Fax：047-492-1384
e-mail: t-nikka1117@cg7.so-net.ne.jp

Y：柴田純夫 Tel：080-5012-3802
e-mail: shibata2670@yahoo.co.jp

K：北村明弘 Tel：090-6191-3316
e-mail: akihiro.kitamura@sho-pat.com

F：小川一郎 Tel/Fax：049-264-0767
e-mail: i-ogawa@mtj.biglobe.ne.jp

B：飯沼義昭 Tel：090-5418-8649
e-mail: takaoka102102@yahoo.co.jp

「本気」で結婚を目指す
名古屋工業大学会員様の
「成婚」をサポートいたします。

46年の実績

名古屋工業大学コース

通常登録料
33,000円(税込) **0円**

定期的に「親御様無料説明会」を開催中です。
46年に渡るノウハウでお子様との会話の秘訣を
お伝えしています。
HP・フリーコールよりお気軽にご相談ください。



あなたと未来をつくる
Bridal
<https://www.bridal-vip.co.jp/>

0120-415-412

営業時間：平日 10:00～20:00 / 土・日・祝 10:00～18:00
定休日：月曜日(祝日は除く)・年末年始



60名のデンソー等企業出身者が御社の課題を解決します!

技術支援

メカから電気・電子、半導体まで
開発設計、品質、生産技術、生産まで

研修・講演

技術系全25講座 一材料、加工、設計、電気・電子、
組込コンピュータ、各種要素技術…
品質系全30講座 一DRBFM、なぜなぜ分析など
各種未然防止手法
マネジメント系全10講座 一経営品質、もしどらリ・デザイン、
プロジェクト管理…

《Benchmarking》電動化・自動運転化コンポーネント等

WORLDTECH 株式会社 **ワールドテック**

代表取締役 寺倉修 (F50)

〒460-0008 名古屋市中区栄5丁目28番12号 名古屋若宮ビル6階
TEL: 052-211-7861 E-mail: solutions@worldtech.co.jp

企画から製本まで承ります。

企画・デザインから製本まで
トータルサポートでお値打ち!!

デザイン

名刺・ハガキ・封筒・チラシ・カタログ・
パンフレット・ポスター・定期刊行物
etc.
タイプ・電子版時代から築き上げら
れたノウハウはDTPにおいて、特に
不得意とされる縦組みの書籍・表組み
の頁物も得意分野です。

印刷

カラー印刷・2色刷り・1色刷り・特色
刷り、品質・部数・ご予算に応じて提供
いたします。
Macintoshのみならず、ワード・一太
郎等の通常のオフセット印刷に過ぎない
Windowsデータの出力ノウハウも
ありますのでご相談ください。

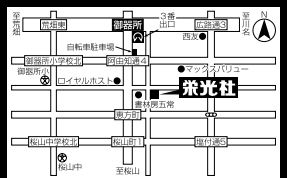
製本

自分史・体験記・詩歌・俳句・小説・エッセイ・童話・絵本等、自分の本を作りた
いとお考えの方。
各種マニュアル・広報・配布文書・名簿・
クラブ・サークル誌・宣伝物等、製本で
お困りの学生・法人の方、少ロットより
お手伝いします。

総合印刷の

有限会社 栄光社

〒466-0035 名古屋市中区松風町三丁目4番地 2F
TEL. (052) 848-6148
FAX. (052) 848-6518
URL <http://www2.ocn.ne.jp/~eik/>
E-mail eikou@theis.ocn.ne.jp



広報委員会

委員長 大鑄 史男 (F49)

学内

吉田奈央子
濱田 晋一 (SC22)
牧野 武彦
後藤 富朗 (EJ9)
杉本 英樹 (ZW6)
安井 孝志 (D62)
本多 沢雄 (ZY6)
小坂井孝生 (K49)
米谷 昭彦 (F60)
横山 淳一 (FB6)
菅田 愛美 (名古屋工業大学 企画広報課)

学外

古橋 伸幸 (SU8)
松本 浩明 (SC19)
浅井 一仁 (IIM21)
廣瀬 光利 (E50)
吉木 満 (W56)
森 真由美 (IID5)
野々山尚志 (Y63)
大矢 泰正 (K52)
寺倉 修 (F50)
入倉 則夫 (B47)

一般社団法人名古屋工業会会誌 「ごきそ」に広告を掲載しませんか

「ごきそ」は隔月発行し、会員・広告
主・関係官庁・各学会・大学・図書館等
に頒布されています。

詳細は名古屋工業会のホームページ

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

でご確認ください。

※広告を募集中です。お問い合わせは名古屋工業会 E-mail: gokiso@lime.ocn.ne.jp までお願いします。